

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.120

2021年4月号

郵便振り込み口座 00910-9-106532

編集人 (社福) ゆうとおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4

金城 正利(きんじょう・まさとし) ^{みぎ}右

さをり班 1989年9月10日生れ
 阪神タイガースの大ファン。

中村 知可子(なかむら・ちかこ) ^{ひだり}左

さをり班 1967年8月8日生れ
 大正琴のお稽古にも行っています。

今回の「ここで生きる」は、ほーぷより、さをり班のベテランとニューフェイスの仲良し二人組を紹介します。

金城さんは昨年10月に「ワークスペースあすく」からほーぷに来られました。お二人にほーぷのさをりの仕事はどうですか?と質問。金城さんは「オーケー」と指でOKサイン。中村さんは「さをり織りは楽しくできてるよ。整経を今、がんばっているけど、たまにまちがうんよ・・・」

ここで、生きる

ひとシリーズ No.17

次に、金城さんに、ほーぷで新しい友達はどうでしたか?と質問。すると隣にいた藪内さんを見てニツコリ。そして中村さんを指さして、またニツコリ。中村さんは金城さんのことを「笑顔がかわいいねん。コーヒーでいつも乾杯するけど、その時もニツコつと笑ってかわいいねん。」金城さんは阪神タイガースの大ファン。いつもユニフォームを着て出勤。甲子園球場にも試合観戦に行かれるらしく「中村さんも今度、ガイドを利用して一緒に行ったら?」と言うと「あのな・・・たまに野球のこと教えてくれんねんけど私は分かれへん。けど自分で言うて自分で笑ってるで・・・」「私がさをり織りの時、居眠りしてしまおうと肩をトントン叩いて起こしてくれることもあんなねん。」と中村さん。「お二人はケンカをしたことないの?」と、聞くと二人声をそろえて、「ない!!ない!!」と言っていました。金城さんは、ほーぷに来られたと同時にグループホームも「タンクルナイサー」に引っ越し、「ゆっくり」の仲間とのお別れもあり、少し淋しい気持ちになっ

ている時もあります。ほーぷではみんなと、楽しく過ごせるよう応援していきます。

(聞き手・富澤 久美子)

みんなでできる会 ～ 職員面談をしました ～

緊急事態宣言を受け、みんなでできる会も事業所を超えての集まりは控えることとなりました。みんなでやる予定をしていた職員面談。。「職員面談でへんのやろか?」「楽しみにしてた集まりなくなってしもた」「しゃあないか」等、感じたことも様々でした。

そんな中、楽しみに取り組んでいる当事者の方々にサポートどうしたらいい?各事業所で進めていかれへんやろか?各事業所やったら出来るんちゃうか!?との支援者の後押しを受け、みなさん、わくわくしながらやってみました!!

事前に担当職員と打ち合わせしたり、当日はリモートで緊張しながら「人数が少ない分たくさん話せた」

「次はみんなでやりたい!」など感想はたくさんでましたよ!

面談された職員を代表して一言、「とても緊張しました」 支援者M

まあまあ良かった。
またしたいと思った。

別の職員さんでも
してみたい!

裏事情や生活とかわかってよかった。プ
ライベートを聞きたい。ゆうとおんの
全員に聞いてみたい!

楽しくて勉強になった。自分たち
の知らないこともあって良かった。
事前に役割(終わりの言葉)を
きめていたのに職員がやってし
まって残念!

面談が実現して良かった!

本当のことを話
してくれて楽し
かった。

いつも話しているMさ
んなのでなのでリラク
スして話せた。初めてや
けど楽しかった。

楽しかった。また行きます!

初めてMさんが普段どんなふうに過
しているかや、前の仕事の話等聞けて良
かった。

知ることが大事
と思った。知る
ことで信頼関係
ができると思
う。



パソコン越しの視線は最初は緊張したけ
ど、Mさんが自分と同じタイプだったの
が驚いた。
だんだん話が弾んでとても楽しかった。

ゆうとおん は一と

けいさぎよう 軽作業

けいさぎようはんは、こせいゆたかめい個性豊かな9名のメンバーでがんばっています。
げんざい現在、コロナ感染対策で、1かい2かいにわかれて作業をしています。
その為、メンバー同士が協力できるように、お互いに「おつかい」として、
しざい資材やメモに依る伝言を届けたりしています。このことで、彼らに使命感や
せきにんかん責任感が芽生えればと期待しています。小さなことですが、社会との繋がりを
ももっていただければと思っています。



さをり



さをりはんのメンバーは、げんざい現在14名。少し狭い空間ではありますが、かんきしょうどく換気、消毒、
マスクをしながさをりを織りを頑張っています。さくねんはじ昨年より始めたビオトープ
はたけ畑での野菜作りや、けいさぎようてつだせつきよくてきおこな積極的にい、さをり織り以外に新
しいことに挑戦しながらできることを増やしています。いろいろな経験を積み重
ねることで、このかんせいひろ世界でひとつだけの織りになっていきます。
ことし今年も、そんなさくひんできあ【作品展】がさくひんてん開催で
きるよう、みんなでがんばおも頑張っていきたいと思います。

すもーる

- ・Tさん
さいきんちゆうしょくひとときどきはいたつでことたの最近 昼食の引き取り、時々配達に出かける事が楽しい。
- ・Fさん
しゅうかいしゅうきんじしんいごこちつづ週2回の出勤が自身にとって居心地がいいので続けたい。
- ・Yさん
かたいへんえんげされんしゅうさいかいコロナ禍で大変だけど演劇練習が再開出来る日がはやく来ないかなあ。



パン・喫茶



さくねんどしんがたかんせんかくだい定期的にきてきおこはんばい
昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、定期的に行っていた販売も
ちゅうしなどおおだけきうねん中止になる等、大きく打撃を受けた1年でした。しかし、そのような状
だからこそピンチをチャンスに捉えパン工房は前進し続けています。
このコロナ禍だからこそ、パンづくしゅうちゅうきかんおもあら
新商品の開発を進めている最中です。現在、取り掛かっている新商品に
ついては、かくしょくしょうひんかんせいだんかいせんでん
については、角食パンです！！商品が完成した段階で宣伝できればと思っ
ています。今年も1年よろしくお願い致します。



2021年 ほーぷ こんな年にしたい

私が、入職して気が付けばあっという間に10年の歳月が経ちました。

ゆうとおんほーぷさをり班では、6名のメンバーさんと共に力を合わせ仕事をしています。

6名のメンバーさんの中には、週3回から10回まで頑張っているメンバーさんもいます。

私が、さをり織り班で研修した時は、私の中で初めて見るさをり織りに、こんな織物があるのだと思いメンバークさんが糸を入れ足を踏みかえトントンと1本1本丁寧に織っていくあざやかな色合いに感動したのを今でも覚えています。

私自身もさをり織りをやってみたいと気持ちが芽生え、タイミングよくさをり班に配属になりました。だが、福祉の仕事も初めて、さをり織りも初めて、ミシンの経験もほとんどないことから私にできるかなと思ひ悩み試行錯誤しながら製品作りをしていたのを思い出します。

ほーぷさをり班、現在はスタッフ2名、ボランティアさんの協力もあり世界にたった1つしかない織物を大切に心を込めて製品にしています。

これから、みんなの笑顔がたくさん見れますように努めていきたいと考えています。

今後、織り以外の製品作りに少しずつ興味を持ち関わっていただけるようにミシンを購入し、さをり班皆

で協力し合い楽しく穏やかに落ち着いた日々を過ごすことができるように共有する時間を大切にしていきたいと考えます。

4月から新年度のスタートとなりました。ほーぷとしましては、まだ全体で集まる事はなかなかできませんが、みんなの楽しみにしている行事はどのようになればやっていけるのか色々と相談しながら取り組んでいきたいと思っています。

今では、新型コロナウイルス感染症が流行し、みなさんの日常生活が大きく変わっていく中で、新しい生活様式を取り入れながら、一人一人の楽しみを見つけた笑顔で過ごせることができる場所を見つけたと思います。



ほーぷ 中谷 恵子

昨年1年間はコロナに泣いた年でしたが、今年もコロナの影響は続きそう、まだまだ色々な事が制約されそうな感じです。2021年3月終わりの送迎中に、メンバーさんが「いつまで、コロナが続くんだろうね。そろそろ紫外線が強くなってくるからサンバイザーを被りたいけど、フェイスシールドが邪魔でサンバイザーを被れないわあ。」とおっしゃられたので「そうですね。焼けちゃうしね。早くコロナが終わって、フェイスシールドとマスクが要らな

いコロナ前の普通の生活に戻りたいですね。」という会話を車の中でしていました。

今まで出来ていたことや、行けていた所が休みになったりで色々なことが出来なくなりストレスが溜まっておられるのが目に見えて判ります。

また、私が知っている事業所（聴覚障がいをお持ちの方々の作業所「大阪市」）では、過去2回の緊急事態宣言が発令された時、2回とも宣言が解除されるまで休んでおりましたが、蔓延防止等重点措置の話をすると「また宣言が出て、却って身体が悪くなりそう、という事でメンバーさんとの話し合いで休まない事にしました。」と言うお話を聞かれました。

こういう時期だからこそ、色々な人と繋がりが、お話が出来るときは沢山お話をし、少しでもメンバーさんのストレスなどの軽減が出来ればと思っています。

「ゆうとおんに通ってよかった。また、明日もゆうとおんに行こう」と、一人でも多くのメンバーさんに思ってもらおうと、周りの職員と協力し、助け合いながら今まで以上に沢山のメンバーさんと接して行き、沢山の笑顔を生んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



ほーぷ 高尾 敬幸

～うえーぶ～

さくねんど ころ な か つうじょう せいかつ おお か なか あたら せいかつようしき そ ねん
昨年度はコロナ禍のため、通常の生活リズムが大きく変わる中で新しい生活様式に沿っての1年でした。

みな さん はどの よう す こと かん
皆さんはどの様に過ごされ、どんな事を感じておられたのでしょうか。

しんねんど むか みな さん ねん おも こんねんど ほうふ なた おも
新年度を迎え、うえーぶメンバーの皆さんに、昨年の思いや今年度の抱負を語っていただきたいと思います。

かみもと みやかみ なまえ まんざい しゅわ す き な の てもっと できる
神本さん：Mさんと宮神アイドルという名前でも漫才がしたい。手話が好きなのでもっと出来るようになりたいです。

ついつい きょねん しごと まる さいん げんき がんば
筒井さん：去年、仕事は〇(まる)サイン。元気で頑張った。

つるやま ころ な がまん 1ねん ろっこう み なだはま い
鶴山さん：コロナで我慢の1年だった。六甲ライナー見たい。コスモスクエア、横浜サイエンスに行きたい。

なかつ ことし がんば
中田さん：今年もマイペースで頑張ります。

はやし きょねん そと でて ことし ころ な おき そと で
林さん：去年はあまり外に出ていません。今年はコロナが収まったら外に出たいです。

ふじた ことし しごと がんば
藤田さん：今年は仕事をもっと頑張りたいです。

もり きょねん ころ な がまん 1ねん ことし けんこう く しごと たの
森さん：去年はコロナで我慢の1年でした。今年は健康で暮らせたらいいです。仕事も楽しいです。

わだ ことし さんぽ い で い
和田さん：今年は散歩に行きたいです。お出かけに行きたいです。

【内職班より】

うかわ かみ す なた がんば
鵜川さん：紙漉きの片づけを頑張ってみます。

こばやし かみ しごと まいしま い
小林さん：紙ちぎりをした。舞洲に行きたい。

たけい ないしよく がんば ちや おど
竹井さん：内職を頑張った。お茶を飲みました。(シェイクシェイクを)踊りたい。

にしや きょねん そと で きみ な さんぽ い しごと たの きゅうけい がんば
西矢さん：去年はあまり外に出ず寂しかった、もっと皆と散歩に行きたい。仕事が楽しい、休憩なしで頑張りたい。

ば ば めいしき しんねんど か
馬場さん：名刺切りはできる。新年度も変わらない。

ふくしま かみ き み
福島さん：ジャバラ、紙切りをやりたい。スポーツを観るのが好き。

ますやま かみ お がんば
益山さん：紙折り、頑張ります。

みやた ないしよく がんば かみ す え か
宮田さん：内職を頑張った。紙漉きをした。カレンダーの絵を描いてみたい。

やまね がんば いた か
山根さん：頑張って働いてフィギュアを買いたい。

Y さん：カレンダーを作った。ジャバラをやりたい。

【紙漉き班より】

いわい はんみん な しよくいん う あ
岩井さん：ガイド行きたい。チュイル作り全部やりたい。クッキー班皆と職員で打ち上げしたい。

おぎ きょねん がんば
尾崎さん：クッキーを頑張りたい。

G さん：パン班に行きたい。納品に行きたい。ガイドにたくさん行きたい。

たにぐち りょうたの しごと がんば
谷口さん：旅行楽しむ。クッキーの仕事頑張る。

とくやま はん みんな なかよ つく いっぱんしゅうろう い
徳山さん：クッキー班の皆と仲良くクッキーを作れるようにする。一般就労に行けるようにしたい。

なかや ことし さい けつこん はんばい がんば
中矢さん：今年で30歳になるから結婚したいです。販売も頑張りたい。

まつうら かみ す きぎょう たの きぎょう
松浦さん：紙漉き作業が楽しかった。クッキー作業がしたい。

まつだ しっぱい がんば や かげんしっぱい がんば
松田さん：ラングドシャ、失敗しないように頑張ってます。焼きを加減失敗しないように頑張る。

やまぐち や おきたしよくどう がんば ひがえ りょうたの たの おも
山口さん：4/9から八尾北食堂頑張ります。ほーぷの内職頑張ります。日帰り旅行も楽しみたいと思います。

【クッキー班より】

※ 了承頂いた方々のみのコメント掲載となっております。



こんねんど たの す ねん
今年度も楽しく過ごしていきたいと思います。

しゅーと すてい じぎょう はじ
～ショート・ステイの事業、始めます～

しゅーと すてい なん くる やまもと ひさし
ショートステイ「ナンクル」 山本 寿

「ゆうとおん」で4月より正式にショート・ステイの事業を始めることになりました。

実はこの話は、随分と以前から“やれればの方向”で「家族交流会」などで話題に上っていたのですが、なかなか具体化することなく、延び延びになっていました。「やれるか、やれないか」のモードからやっと難産の末、「やるためにどうするか」のモードになり、スタートにこぎつけたのが実情です。そのために、家族の皆様へお知らせしていた、開始予定が大幅に遅れてしまったことに対して、この誌面をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、実際のショート・ステイでの利用者さんの生活の様子ですが・・・原稿締め切りの関係上、今回はご紹介することができませんが、1月からプレ・ショート(慣れるまで時間を要すると思われたKさん対象に)を月2回、実施してきましたので、そのときの様子に少し触れてみたいと思います。

2021年1月末日の土曜日。プレ・ショートの1回目が始まる。Kさんにとって、「ゆうとおん(GHナンクルナイサー)」での初めてのショート、そして私にとっても初めてのKさんとのショートでした。あいにくの雨模様の中、不安と期待を背中に感じながら、車でKさんを迎えに行きました。家から作業所に行くのにも、ときどきスムーズに出られない彼でしたが、予想に反して比較的早く出てきて、乗車してくれました。表情は穏やかで、ときどき笑みも浮かんでいる・・・「よしよし、これなら大丈夫かな?」と思いながら、宿泊先の「ナンクルナイサー」に向けて車を走らせました。約20分後、到着。「さて・・・今度は車から降りてくれるだろうか・・・」次のハードルが頭によぎる。しかし、その不安を秒殺し、悪い予想を裏返るかのように「ナンクルナイサー」の中へ進んで行き、入るとすぐ2階のショートの部屋へ上がって行く。プレ・ショート前に、日中の作業班に協力してもらい何度か場所の下見を行なっていることも、功を奏しているように思う。

その後、入浴。移行はスムーズ。浴室のいすには、なかなか座れず、結局スタンディングのまま身体洗い、湯舟のへりに座ったときに洗髪を進める。その後は、自分で湯舟に入って好きな水遊び。その間、扉の隙間から様子を見ながら、しばらく見守りを続けていました。結局、入浴時間は約50分で無事終了!風呂上りの衣類の着脱はスムーズ、そのあと再び2階のショートの部屋へ戻りました。夕食はお腹が空いていたのか、好きなメニューだったのか、さっさと食卓の自分の位置に座り、食べ始めました(この日はそうでしたが、日によっては途中で立ってウロウロしながら食べ終える時もあり)。食事介助は、そのときの彼の様子を見ながら、見守り・一部介助・全介助と切り替えて進めています。水に触れたり、水の流れを見るのが好きなのか?、世話人の洗い物を嬉しそうによく眺めています。しばらく1階のリビングで過ごしたのち、20時頃には2階の自分のショートの部屋に上がります。このようなペースの流れは、2回目以降もだいたい続いています。

ここまでの生活の流れは、多少のスムーズさの違いはあるものの、プレの期間中、想像したよりも安定していて、今後のホームでの生活に向けても見通しが立つものでした。

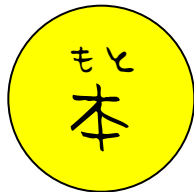
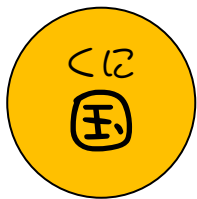
今後の課題としては、不慣れな場所ということもあり、細かい点では色々ありますが、何よりも睡眠がまだ安定していない(入眠までに時間がかかる)ということがあります。ときどき世話人にスキンシップを求めるように、ちょっかいを仕掛けてきます。呼応すると嬉しそうにしているのですが、テンションが高くなってきます。その神経の昂りが就寝時にも残っていて、睡眠にも影響が出ているのでは?と少し考えています。では、呼応するのをやめたらそれで解決するのか?と言えば、ことはそんなに簡単なことでもないだろうと私は思っています。

就寝体制・準備を早めにつくしながら、何とか本人にも“余暇時間”➡“就寝時間”への切り替え意識を持ってもらえるように、試行錯誤、チャレンジが続きます。

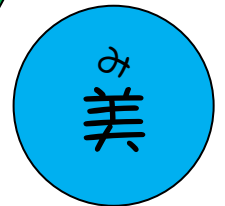
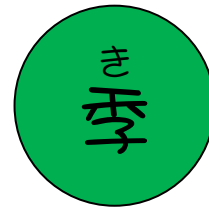
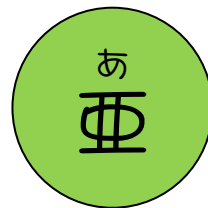
～ぼちぼちいこか～

2020年11月よりぼちぼちいこかで働いている国本です。通院と居宅を担当しています。2020年はコロナに振り回され続けた1年でした。メンバーさんや、ヘルパーさんにも協力して頂き、2度目の緊急事態宣言もおかげさまで無事に乗り切ることができました。協力してくださった皆さんに感謝です。ご協力ありがとうございました。今後も感染対策に気を付けながら、ガイドを楽しく利用してもらえたらと思います。そして1日も早いコロナウィルス収束を願うばかりです。

さて、国本にまだ会ったことがないメンバーさんもいると思うので、「国本 亜季美」の生態をお伝えします。



おおざっぱ
大雑把



どうぶつ たい い ず
動物大好き
へび にく て
苦手



あーがた
O型

じつ ふたご
実双子

かたくいこ さわ
片栗粉触れない

ひとみし
人見知り

しよくぶつ め
植物を愛でるが、
か
枯らしてしまう。

ねこ ひきか
猫を3匹飼って
いる

こめ あ
米が好き

そうだんし えんじぎょうしょ

相談支援事業所

のびやか

ねんど ほうふ

2021年度の抱負

まつだ けんた
松田 健太

みなさんいかがお過ごしでしょうか？

久しぶりに原稿書きの順番が回ってきました。2020年度は淡々と毎日が過ぎ、もともと飲む機会はあまり多くなかったのですが、アルコールを一滴も口にするの一年になりました。

とはいえ、相談支援業務の方は例年と変わらず色々なことができました。

これまで携わったことがない、そんな生きづらさを抱えた方たちとの縁も出来ました。

ある人にとってはなんて事のない毎日が、ある人にとってはとても困難で生きづらい毎日である現実。日常には無限の自由が広がっているように思える一方、それに負けないくらいの不自由さも同時に僕らに教えてくれていて、自由さと不自由さを行ったり来たりしながら、少しでもよりよい暮らしを願いつつ奮闘しています。

みなさんは未来の事を明確にイメージしながら生きていくタイプですか？

例えば理想の自分がある、それに向かって頑張っていく人も多いのかな、という印象です。

僕自身は、いま目の前の事に集中するタイプの人間です。未来というのは今を積み重ねて行くことの連続でしかなく、目の前の事に力を尽くすことが一番だと考えています。

長い前置きになりましたが、そのような理由もあり、今年も明確な目標を立てることなく、目安のような目安のような、そんな小さなものを頼りに新しい年度を迎えようとしています。そしてまた一年相談員として誰かにとって目印のような存在になれば、それ以上に嬉しい事はありません。

ここからは個人的な話題になりますが、みなさんは年齢を重ねて変化していく自分というものを自覚していますか？ 僕自身は、日々の変化のひとつとして、ニュースが欠かせなくなり、各放送局のニュース番組を見る機会が増えました。なかでも欠かさず見ると言えばNEWS23です。現政権におもねることなく報じてくれているニュース番組のひとつだと感じています。

福祉関係の動向についても、当然気にかかります。僕らの世代は日本が経済大国と教えられ育った最後の世代かもしれません。しかしこの何十年を経て、日本はとても貧しい国になってしまいました。社会保険料を税金と考えると、世界有数の重税国家となりましたが、その反面手厚い福祉とは程遠い現状です。そんな中でも福祉を必要とする人に当たり前に制度が整えられているのか、常に声を上げていかなければ、後退していくことは避けられません。今年は東北の震災から10年がたち、再び絆という言葉を目にする機会が増えましたが、絆という実態のない言葉に事の本質が見えなくなるのが嫌だな、という思いがあります。絆などなくても、淡々とそれぞれの思い思いの生活を保障してくれたらそれで良い、と僕は考えます。

長々と、とりとめもなく書き連ねましたが、次回の原稿は一年後くらいになるのでしょうか。

それではみなさんのこれからの一年が良い年になりますように。



事例検討会で職場での問題を考えあう

堀 智晴 (「ゆうとおん」監査委員・インクルーシブ(共生)教育研究所)

3月27日に事例研究会をおこないました。その報告です。報告された職員の問題解決につながればいいと思います。また研究会に参加した人にも自分が実践していく上で参考になれば幸いです。

1、研究会の進め方

- ①事例を報告して、どんな問題に直面しているのか報告してもらいました。
- ②グループに分かれてこの事例について自由に意見交換しました。
- ③グループで出された意見について全体会で報告してもらいました。
- ④さらに、全体で自由に意見交換をしました。
- ⑤堀なりのまとめをさせていただきました。
- ⑥最後に報告者の感想と意見を述べていただきました。

2、堀なりの5つのまとめ

①人間の問題

事例は、人間が誰でもぶつかる問題でもあるのだと思いました。人が人を好きになる、愛とはなにかという問題です。これは同時に好きではない、好きになれない、嫌いだ、という人間関係の基本的な問題でもあります。また、好きな人とは結婚したいという願望を持つこととも関係しています。このように、今回の問題は人間としての避けて通れない問題とつながっていると思います。

②組織の問題

この問題は、職場における人間関係として現れ、性的な関心と働きかけの問題なので、職場のあり方に大きく左右されています。問題解決の一つとして、職場の空気を変えたり、配置転換をしたりするなど組織の問題であると認識して解決を図る道を探れる問題です。

③ルールの問題

仕事中に守るべきルールが守られていないという問題です。この問題は性的ハラスメントともいえるもので犯罪とみなされてもいい問題です。大人と子どもとは異なるでしょうが、大阪市内の大空小学校には「自分がされていやなことは他人にしない」という一つのルールがあり、これを守ることが全ての子どもに求められていました。職場での守るべきルールとして確認する必要があります。

④方法の問題

この問題にかかわって悩んでいる人、問題を起こす人に対するいろんな方法を活用することができるかもしれません。怒りを和らげる方法として、また、気分転換の方法としてアンガーマネジメントやクールダウンなどの方法があります。しかし、これは本当の解決になるかどうか疑問が残ります。

⑤本人の問題

問題を起こしている人、問題で悩んでいる人、同じ職場で働く人、それぞれがこの問題に対して自分でどう受けとめ判断して行動するか、が問われているのではないかと考えるのです。これは、今、精神障害者のかかえる問題をグループで話しあいながら解決する方法として注目されているOD(オープン・ダイアログ)からヒントをえたもので、すぐ答えが出なくても各自の判断とそれにもとづく行動に期待するというやり方ともつながっているという考え方です。

3、事例報告をされた職員の感想

今回の問題に対して事例を報告された職員から、「研究会は参考になった。職場内で前向きに話しあうようにしていきたいという気持ちになった」という感想が出されました。

堀も、この職員の参加したグループでの話し合いが、職員の気持ちを共感的に受けとめどう解決すればいいかと真剣に話しあっておられて大変よかった、と感じました。これはまさにオープン・ダイアログの方法をヒントにしていると思いました。

当世作業所事情82

はたけんじろう
畑健次郎

空を泳ぐ

「物わりのいいじいさんにならないように」

近鉄大阪線の八尾駅近くの商業施設アリオの中に、MARUZENがあります。石井桃子さんの「ノンちゃん雲に乗る」を読みたくて探しましたが見つかりませんでした。(後日、入手しました)

昨年度は7月に西村さん、1月に伊藤さんが逝ってしまつて、グループホームは少しさみしくなりました。彼女たちにとって、グループホームは納得のいく終の棲家でありえたのか、いつものように堂々巡りの自問自答がつづきます。

ゆうとおんがグループホームをはじめて約20年経ちます。ホームを巡つては、いつも個別性の尊重と、複数の人間が空間を共有する時の約束事との兼ね合いが問題になります。

プライベートな空間が大事だということに関してはだれも異論はありません。その個性を支えるための基礎である共同空間のありようは、当事者のみならず、「支援」の側もイメージは多様です。

当事者間、世話人間、そして当事者と世話人の間で、時にはいさかきもありますが、コーヒーを飲みながら他愛ない話に花が咲くこともあります。

世話人の入れ替わりはけっこう目まぐるしいものの、池田由紀子さんをはじめとする初期のころ

からのメンバーは、今もグループホームの住人でありつづけています。

私はといえば、今年度から本格的にショートステイが始まるという事情もあつて、一年限定でグループホームの管理者に復帰しました。

いざとなれば自分がシヤカリキに動けばいいという情熱も体力も衰えています。私たちがゆうとおんを始めた時の初心を忘れず、「24時間」を視野に入れた取り組みを一步でも前に進めたいと思つています。

共に育ち、共に学び、共に働き、共に生きるという流れのなかで、アップアップしながら、ゆうとおんは泳いできました。

多くの「障害児」を締め出していた保育所に対する入所運動、子どもたちの選別を進める教育に対する異議申し立て、やがて学校卒業後の労働と生活の問題も浮上してきました。

その具体化の一つの手立てとして、作業所の立上げとグループホームの開設がありました。

今年度の最大の目標は、一人一人の個別事情を踏まえた「暮らしの場」作りに踏み出すことです。あらかじめ枠をつくつて、そこに当てはまる人を抜き出すのではなくて、その人の生きるスタイルをそのまま受け止めることができるような「暮らしの場」作りをソフト、ハードの両面で検討していきます。まだ雲をつかむような話です。

さて、グループホームに話を戻すと、事業の存続さえ脅かしかねない事態が私たちのすぐそばで起きています。

ホームで生活する障害当事者の生活を支えているのが世話人・生活支援員という現場の職員です。賃金面をはじめ、可能な限り彼らの待遇を改善していくのは、ホームを運営する法人の役目です。しかし入つて来るお金には限度があります。

たつぷりと内部留保のある大企業ならともかく、福祉業界の賃金が低いのは、半ば構造的な問題です。その構造を生み出している厚生労働省が、グループホームの「休憩時間」の扱いについては、「労働者」側の主張を是としているようです。

わらゆん(G・H事業所)でいえば、現在6つのグループホームにそれぞれ4人から6人が暮らしています。高齢者施設や病院勤務と違うところは、その時にもよりますが、泊まり勤務でもある程度の休憩がとれることです。わらゆんでは宿泊勤務に5時間の休憩を充てています。一方、拘束している(宿泊手当て対応)限り、全て労働時間だという主張があります。現にわらゆんの職員でもそういう意見の人がいます。私たちがごく身近で知りうる限りでも、労働時間の定義を巡って争いになったところは、事業所側が負けています。構図だけ見ると、不当労働行為に抗する労働者とお金を出し渋る経営側の対立のように映らなくもありません。

経営側Ⅱ理事会の面々は理事であることによって報酬がある訳ではありません。現場にいる理事である私たちも、理事であることによる賃金面での特典はありません。

事業所側Ⅰ要求を突き付けた元世話人には弁護士や労働組合が応援していることがあるようです。

私もその要求自体が不当だと思っているわけではありません。労働者としてはごく自然な要求かも知れませんが、実際に休憩がとれない実態のところもあるかも知れません。しかし、国の福祉予算の根本的な見直しが必要ならば、結果としてグループホーム事業の存続さえ危うくなりかねないのも事実です。

実態や状況を見ない「理念」や「主張」の表面的な正しさは、時として理念や主張そのものを裏切ります。労働者である事は簡単ですが、社会を変えていく原動力としての労働者になる事はむづかしいと改めて感じます。

障害当事者が地域で生きることとは、それなりのバックアップがあればなんとかやっていけるようになります。しかし地域で生きるのには簡単ではありません。私たちは、グループホームの意義を、「地域で普通に生きる」ためと言ってきました。そこでは、地域はすでに存在するものとして語ってきました。自分の思いや行動そのものの軌跡が地域だと定義し直す必要性を感じます。

その時、ただ「生きている」だけに価値を見出せ

るような地域が芽を出してくるような気がします。

前回、「私たち」と「私」について触れました。

私たちの世代なら多くの人が知っている岡林信康の「私たちの望むものは」という歌を連想したという感想を寄せてくれた人がいました。

その昔、大阪の泉州地方の紡績工場に中卒の多くの若者が集団就職でやってきました。企業は彼らに「高校に行ける」という条件を提示しました。

当事者の若者たちをはじめとして、その企業内（？）高校の灯を消すなどという要求を掲げて府教委に押し掛けたことがありました。なにかの縁で私もたま

たまその中にいたことがありました。その時、みんなが歌っていたのが岡林信康さんの「友よ」という歌でした。その歌はあまり好きになれなかったけれど、それから後で聞いた「私たちの望むものは私たちがではなく、私でありつづけることだ」というメッセージはずっと心に残っていました。

大阪の首長はコロナ下の状況でも、自分たちの権限強化のための制度いじりに夢中になっていました。コロナに関しては地道な取り組みはそっちのけでパフオーマンスだけで事態を乗り切ろうとしているようにしか見えませんでした。その結果、生活の逼迫や医療崩壊を招く事態に立ち至っています。

そんな風に偉そうに批判しても、わが身を振り返るとつらいところがあります。

ここまで患者が急増したら、いつグループホームでも当事者や世話人に罹患者が出て不思議ではありません。病院に入れるかどうか分からない状況で彼、彼女らをどう守っていけるのかというのは、喫緊の課題です。

日中の職員にも「8時間」の枠ではなく「24時間」の視点でと細々とやってきましたが、今まさにその内実が問われようとしています。

どの現場にいたとしても、個々の職員が「暮らしの場」を支えるという視点と方向性がなければ、ゆうとおんの存在意義は限りなくゼロに近くなります。

「ノンちゃん雲に乗る」を読みたいと思ったのは、佐伯一麦さんの「からっぽを充たす」という本に紹介されていた引用箇所に興味を惹かれたからです。孫引きになりますが、こんな風に引用されています。

「ノンちゃん、みんなから「いい子」「紫式部」とまで呼ばれるような子だが、おじいさんは、心配そうに眉を寄せて言う。「それは、気をつけなくちゃいけない！」「あたしは、えらい、あたしは「いい子だ」と思っているとかならずつまらない人間になる。それは、じつにふしぎなことだけれど」

人に好かれたい、ものわりのいいいいきさんだと思われないなどゆめゆめ思わず、自由に空を泳いで、ふんわりした雲に出会いたいものです。

はだけ
～ビオトープの畑だより～
じゃがいも、たまねぎ、いちご
など育てています。



皆様、ご協力ありがとうございました。

2020年の繰越金 3,720,578 円 法人への直接カンパ 685,000 円

500 万円はグループホームや日中作業所の整備等、改善費に遣わせて頂きました。ありがとうございました。

●協力会費を頂いた方々 (2020年3月11日～2021年4月8日 敬省略)

秋田貴久子 池田由紀子 石川増実 石橋史大 伊藤輝夫 伊藤章子 伊藤美津子 稲垣寛子
 鵜川雅基 内田健太 浦野良二 大下千恵子 大谷快生 岡村みな子 小倉一郎 小崎由美
 河端利雄 北浦加代子 喜友名奈津子 桐生佳子 金城正利 窪田義廣 黒瀬正 栗本克彦
 甲田恭子 小島晨平 小林憲司 小林俊介 小林誠 木挽晴斗 小松悦子 堺屋和夫
 下村啓子 小路梨恵 新垣康男 滝沢厚子 竹田栄宏 田中誠太 田中正和 田中百枝
 谷口圭一 田畑幸子 ちいろば会 長井豊子 墳下智里 辻村慎司 辻本亜希子 津田健一郎
 土橋恵子 筒井健一 鶴山忠 出口陽子 藤内昌信 富澤久美子 富澤伸行 長岡利彦
 中西友子 中野栄子 中前公志 中村美幸 西村智美 長谷川哲夫 畑健次郎 服部舜一
 林千恵子 林竜児 原田普子 平田真也 深町加代子 福井克彦 福井ひとみ 福島正人
 福田和人 福田蓉子 藤塚真紀 古川晶子 前田裕 松井潤 松嶋陽菜 松田健太 松田晴代
 松田正和 松永伸夫 松野香織 見谷渉 南憲一 宮野直子 宮本明男 三輪由美子
 桃井百合 森勇次 八尾北医療センター労組 藪内智幸 山根了子 山本康平 山本良城
 柚木琴音 吉武万喜子 匿名2名 お名前の分からない郵便振替もありました1名

社会福祉法人 ゆうとון

本 部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとוןはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとוןうゑーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとוןほーぷ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコラハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1口 2,000 円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階 定 価 / 50 円